

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



平成27年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2015/5/1 現在

【経済】

第1問（22点）

- I 問1 D 問2 A 問3 D 問4 D 問5 A 問6 D 問7 C
問8 D 問9 B
- II 問1 B 問2 C 問3 E
- III 問1 C 問2 D

第2問（35点）

- I 問1 A 問2 A 問3 D 問4 C 問5 A 問6 B 問7 B
問8 D 問9 B 問10 D 問11 A
- II 問1 A 問2 A 問3 B
- III 問1 C 問2 D 問3 B
- IV 問1 E 問2 B 問3 A

第3問（15点）

- 問1 B 問2 D 問3 D 問4 D 問5 C 問6 B 問7 D
- 問8 D 問9 C 問10 C

第4問（18点）

- I 問1 A 問2 C 問3 A 問4 E
- II 問1 B 問2 C 問3 A
- III 問1 B 問2 C 問3 C

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2015 証券アナリスト 1 次試験（春）

「経済」

今回の試験のほとんどの出題内容は、昨年の春試験をそのまま受け継いだものであり、また、出題レベルも昨年と同じように標準的なものでした。とくに、多くの受験者にとって予期していなかった出題内容として、第 2 問Ⅲの間 3 の「ケインズ型消費関数における基礎消費がマイナスの場合の平均消費性向の性質」と、第 2 問Ⅳの間 3 の「付加価値の分配に関する計算問題」を挙げることができますが、日頃、基本理論の理解を重視している方々にとっては、十分に得点が可能な問題であったと思われます。試験問題全体としては、過去のアナリスト試験でも出題されている基本問題が多く含まれており、これら基本問題から確実に得点することが、合格の扉を開ける鍵となっているといえます。

問題の構成を見えますと、過去の本試験と同じように、大問 4 問で構成されています。小問の問題数は、第 1 問が 14 問、第 2 問が 20 問、第 3 問が 10 問、第 4 問が 10 問と、全部で 54 問あり、昨年の春試験と同じ問題数でした。また、満点 90 点のうち各大問の配点は、第 1 問が 22 点、第 2 問が 35 点、第 3 問が 15 点、第 4 問が 18 点と、これも昨年の春試験と同じ配点でした。

大問別に今回の試験の概要と特徴について見てみると、第 1 問（ミクロ経済学）では、消費者行動（無差別曲線と効用関数、ギッフェン財など）、完全競争市場（成立条件、需要曲線と供給曲線、価格弾力性など）、不完全競争市場（独占企業など）、市場の失敗（公共財、外部効果、費用逡減産業など）、状態価格、ゲームの理論、情報の経済学、不確実性下の資産選択から出題されています。なお、計算問題の内容は、昨年とほぼ同じものとなっています。

第 2 問（マクロ経済学全般）では、国民経済計算、財市場と乗数効果、IS-LM 分析、AD-AS 分析、消費の決定理論（ケインズ型消費関数、ライフサイクル仮説）、フィッシャー方程式、フィリップス曲線、インフレの効果、成長会計など、過去の出題内容と同じような問題が多くを占めています。なお、（公社）日本証券アナリスト協会の通信テキスト第 7 回の「マクロダイナミックス」の内容が、執筆者の変更により新しくなったことに関連して、貨幣数量説や経済成長モデルなど、最近出題されていなかった分野の問題も含まれていました。

第 3 問（金融経済）では、日本の資金循環勘定、金融市場と金融機関、長期金利の変動要因、日本銀行と金融調節、財政事情と財政政策の実効性など、これまでも出題されている知識の問題が中心となっています。

第 4 問（国際金融）では、国際収支の内訳（2014 年 1 月に改訂された国際収支統計にもとづいています。）、外国為替市場への介入、ドルの直先総合持高、購買力平価・実質為替レート・先物為替レートの計算問題、金融緩和政策と為替レート、といった、過去の出題内容と同じような問題が中心となっています。

以上